昭和電工株式会社

全社の予算/決算情報処理に Microsoft SQL Server Enterprise Edition による経営管理ソリューション Sactona を導入
集計業務の大幅な効率化に加え、BI によるデータ活用の取り組みも進行中

ソリューション概要

○プロファイル

昭和電工株式会社は 1939 年設立。長い歴史を通じ、総合化学会社として固有かつ優位性のある技術をベースに、先進/先端技術領域をリードする素材や部品の研究開発と製品およびサービスを提供してきました。またグローバル規模での事業構造、環境の変化に対応し、ハードディスクと黒鉛電極を主力とした中期経営計画「ペガサス」を推進。激変する事業環境に対応した既存事業の再設計を最重点課題として、2013 年 1 月には大幅な組織改定を実施するなど、グローバル市場を視野に入れた事業運営に積極的に取り組んでいます。

○ソフトウェアとサービス

- Microsoft® SQL Server® 2008 R2 Enterprise Edition
- 経営管理ソリューション Sactona (サクトナ)

○パートナー

- 日立SC株式会社
- アウトルックコンサルティング株式会社

○メリット

- SQL Server Enterprise Edition の本格的なビジネス インテリジェンス機能が、高速かつ自動化されたデータ入力と集計を実現し、経理の業務効率を大幅にアップ
- 標準搭載の BI 機能である Analysis Services が、入力データをリアルタイムに処理。予算/決算情報に基づく多彩な分析結果を迅速に利用可能
- Sactona による Microsoft® Excel® の入力フォームの忠実な再現が、Excel のスプレッドシートに慣れたエンド ユーザーにもスムーズなデータベース導入と快適な利用環境を提供

○ユーザー コメント

「Excel はどの職場にもあり、一般の社員にもなじみ深く使いやすいツールです。しかし管理会計の視点からデータの収集、集計、さらに分析といった高度なデータ活用を実現しようとすると、やはり本格的なデータベースが必要不可欠です。そこで、SQL Server Enterprise Edition をバックエンドに備えた Sactona の導入に踏み切ったのです」

昭和電工株式会社
情報システム部
マネージャー
加藤 聡 氏

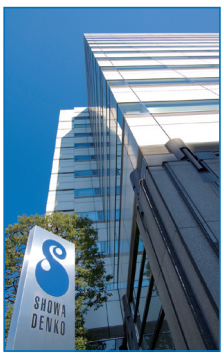
約 1 世紀に渡る歴史を誇る総合化学企業として、素材、部品における先進、先端技術領域をリードしてきた昭和電工株式会社。同社では 2012 年 4 月から、新しい予算/決算情報収集システムに、SQL Server Enterprise Edition をデータベースとする経営管理ソリューション Sactona (サクトナ) を導入。これまで Microsoft Excel のスプレッド シートをベースに手作業で行ってきた各事業部の予算管理業務を、データの収集から集計、分析まで一挙に効率化しました。さらにそこで得られた詳細な分析結果や時間的余裕を活用した、企業経営に貢献する管理会計のための体制作り、そして会計情報処理のみにとどまらない全社的な業務データの収集、集計、処理作業への応用展開を目指しています。

導入背景とねらい
管理会計の効率化に向けて本格的なデータベース導入を決定

企業における財務/会計の役割は、ますます大きくなるばかりです。とりわけ管理会計は、自社の企業活動のパフォーマンスを正確に分析し、問題点や新たなビジネスへの指針を探るといった点で、経営戦略に直結する重要な役割を担っています。そうした管理会計の業務に、SQL Server Enterprise Edition をデータベースとする経営管理ソリューション Sactona (サクトナ) を導入し、各事業部の予算、決算データの効率よい収集や、従来のスプレッド シートでの作業では不可能だったデータベースならではのメリットを実現。さらに SQL Server の標準 BI 機能である Analysis Services によるデータ分析を利用した、経営に貢献する管理会計の体制作りを進めつつあるのが、昭和電工株式会社 (以下、昭和電工) です。

「そもそもの始まりは、Excel による情報収集をいかに効率化するかでした。Excel はどの職場にもあり、一般の社員にもなじみ深いツールですが、管理会計の視点からデータの収集、集計、さらにデータ分析と活用といった展開を考えると、まったく十分ではありません。そこでまず、効率よく情報を収集、活用できる新しい器を作ろうということになったのです」と、昭和電工株式会社 情報システム部 マネージャー 加藤 聡 氏は振り返ります。

当時、昭和電工では予算、決算のデータを収集するために、事業部、事業所を併せて 30 以上もの部署に Excel の記入用シートを配布。各事業部の計数担当者と各事業所の経理担当者が数字を記入した後、シートを回収して、財務・経理部の担当者が手作業で財務諸表を作成していました。このためシートの配布、回収、そして転記の各工程に非常に時間がかかるうえ、手作業によるミスも避けられず、システム化による改善は急務でした。



昭和電工株式会社

最初に構築したしくみは、グループウェア上の各事業部および事業所専用のボックスに、担当者が数値を入力した財務諸表のファイルをアップロードし、それを経理部門がダウンロードして集計するというものでした。しかしこれでは Excel のシートを集めるまではスムーズにできても、集計業務が煩雑かつ時間を喰う点は以前と変わりません。

「そこで次は、Excel のデータ収集用パッケージを導入しました。これは

昭和電工株式会社

昭和電工株式会社
情報システム部
マネージャー
加藤 聡 氏

昭和電工株式会社
財務・経理部
出納チームリーダー
城福 正章 氏

昭和電工株式会社
財務・経理部
会計・税務グループ
アシスタント・マネージャー
益繁 隆 氏

日立 SC 株式会社
ビジネスシステムサポート
事業部
神田 晋 氏

アウトルックコンサルティング株式会社
マネージングディレクター
吉田 裕次 氏

アウトルックコンサルティング株式会社
シニアマネージャー
中崎 浩美 氏

比較的価格も安く簡単に導入できたのですが、データベースを持っていないという致命的な問題がありました。つまり Excel のデータを集めて集計まではできても、肝心のその先のデータ分析、活用に進めないのです。しかもデータが大量になるとフリーズしたり、データの不整合や排他制御の不具合といった問題も出てきて、この先長く使っていくにはやはり本格的なデータベースのしくみを持ったツールが不可欠だと痛感したのです」(加藤 氏)。

導入の経緯

省コストと使いやすさに着目して 経営管理ソリューション Sactona を選択

昭和電工がエンタープライズ向けデータベースを備えた、新しい予算/決算情報収集システムの検討に着手したのは、2011 年 4 月でした。まず RFP を作成して数社に提案を依頼。およそ 3 か月をかけて入念に絞り込んでいきました。ここでは、大手 IT ベンダーの製品はもちろん、オープンソース データベースや XML データベースを使うしくみまで幅広く検討。同社のシステム インテグレーションを担当し、今回の製品選択でも評価やベンダーのヒアリング対応などをサポートしてきた日立 SC 株式会社 ビジネスシステムサポート事業部 神田 晋 氏は、「実績ある大手 IT ベンダーの製品をいくつも検討しましたが、機能は良くてもライセンス料が非常に高いとか、社内での導入展開が難しいといった問題がありました。ここで行き詰まっていたところ、Sactona に出会いました」と語ります。こうして絞り込んだ候補から、最終的に Sactona が選ばれました。

Sactona は、日本マイクロソフトのパートナー企業であるアウトルックコンサルティング株式会社の提供する経営管理ソリューションです。SharePoint® Foundation によるポータルを介して Excel ファイルの配布および回収を行い、さらにその Excel ファイル内のデータを SQL Server Enterprise Edition と連携できる点で、本格的なデータベースを導入するという昭和電工の要件に十分に応える製品です。

神田 氏は、Excel との親和性の高さを考えると、データベースはおのずと SQL Server になると当初から考えていました。しかし、各事業部の計数担当者など一般の社員が利用するシステムであることを考慮すると、予算/決算情報収集業務をサポートできる機能を持ったパッケージであることが、より使いやすさにつながると考えたのです。この点でも、Sactona は最適な選択肢でした。「決め手となったのは、業務運用に必要十分な機能を持っていたことです。機能と価格の対比 = コスト パフォーマンスという点でも、ライセンスの価格という点でも、他の候補に比べて大きなアドバンテージがありました。もう 1 つは、専用アプリケーションのインストールが不要なため、クライアント PC の展開が容易な点です。将来的なグループ内への横展開を考えると、これは大変有利です」。

正式な採用が決定したのは 2011 年 11 月でした。同社では 1 月から新年度が始まるため、すぐに 2012 年度の設備投資予算に導入計画を盛り込み、年明け早々に決裁。2012 年 4 月から約 3 か月の導入期間を経て、6 月には最初の業務が本番リリースされました。

全社のデータ集計、分析にあたる昭和電工株式会社 財務・経理部 出納チームリーダー 城福 正章 氏は Sactona の最初の印象を、「従来の Excel ベースのツールと、ほぼ見た目が変わらないと感じました。ファイルのチェックイン/チェックアウト操作が新しく加わりましたが、これも慣れれば十分に使いこなせるレベルです」と語ります。

これについて、アウトルックコンサルティング株式会社 シニアマネージャー 中崎 浩美 氏は、「Sactona では現行の Excel のレイアウトの忠実な再現が可能です。このため、ユーザーは以前から慣れ親しんだ Excel のフォームをそのまま利用でき、新しいツールの導入時にありがちな混乱や、独自の入力フォームで苦労することがほとんどありません」と説明します。データ入力するユーザーは Internet Explorer® と Excel があれば、Excel のフォームからデータ入力ができます。Sactona に入力されたデータはリアルタイムで集計、換算、内部取引の消去がされるので、時間のない締め切り間際でも、ほぼリアルタイムで集計結果の確認ができるため、集計結果を待つストレスがありません。また Sactona には、データ量が増大しても処理時間を短く抑える工夫が備わっており、グローバル規模の大量データの集計などでも、最適なハードウェアとの組み合わせで高いパフォーマンスを維持。すでに、全世界のグループ全体で 1,000 ユーザーを超える経営管理システムへの導入実績も持っています。

さらに日立 SC 株式会社 (以下、日立 SC) が必要なテンプレートをすべて作成、提供しているため、新ツールの導入に伴う混乱もほとんどなく、スムーズな移行が実現したことも今回の大きな成果です。

昭和電工株式会社

導入効果

データ連携と自動化により 集約から分析までを一挙に効率化

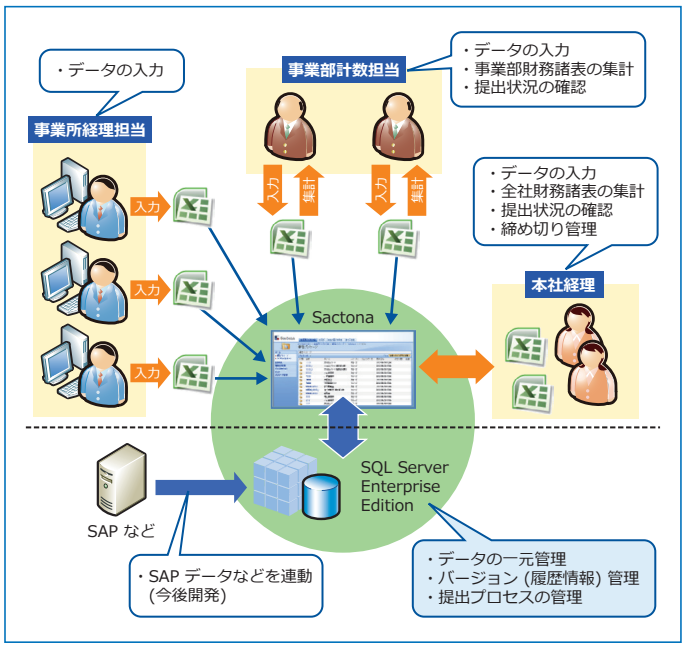
今回の Sactona による新しいシステムでは、データの入力テンプレート配布と回収、集計、分析などが SQL Server Enterprise Edition のデータベースを中心に自動化され、従来の手作業が多かった業務を大きく塗り替えている点が特長です。具体的な作業の流れとしては、ポータル経由で配布される Excel テンプレートに各事業部、および事業所の担当者が計画値を入力。このテンプレートは SQL Server によって直接自動的に集計されます。このため、テンプレートが戻ってくる待ち時間がなくなり、手作業での転記によるミスも根絶されて、作業効率とデータの精度が一挙に向上しました。

Sactona がもたらしたメリットの中で、最も大きかったのは効率化でした。とりわけ各事業部の数字をまとめる財務・経理部門の業務効率の改善効果はめざましかったと、城福 氏は指摘します。「各事業部では、あちこちの事業所から集まってきた基礎データを計数担当者が 1 つの財務諸表にまとめます。この転記作業が、以前は手作業によるコピー & ペーストの繰り返しで、毎回 1 時間くらいかかっていました。Sactona になってからは自動集計なので、この作業がほぼなくなりました。事業部は全部で 10 以上ありますので、1 回の集計につき延べ 10 数時間が削減された計算になります」。

また最初にデータベースに基礎情報を入れておけば、あとは毎回テンプレートの数字の更新で済むため、データ入力の工数も削減できました。さらに、この Excel テンプレートにはデータベースから引き出された過去の入力値があらかじめ入力されており、担当者はその数字と見比べて計画値を検討しながら入力できるため、見込み精度も大きくアップしました。

一方、昭和電工株式会社 財務・経理部 会計・税務グループ アシスタント・マネージャー 益繁 隆 氏は、データベースならではの機能を大きく評価します。「データベースを持たなかった以前のツールでは、データ連携ができないため手作業で集計していました。データ集計だけで半日かかったこともあり、予算編成締め切り間際では非常に痛いタイム ロスでした。しかし、Sactona では集計からそのデータがデータベースに書き込まれるまでの一連の処理が非常に速く完了できるのです。しかもそれらが自動的に連携するので、ユーザーが書き込み作業を意識することもありません」。Sactona の機能面に対する満足度は非常に高く、導入当初の使用トレーニングの手間など無視してもよいほどのメリットが得られたと益繁 氏は評価します。

Sactona のもう 1 つの大きな特長は、SQL Server の標準 BI 機能である Analysis Services の強力なデータ集計、分析機能です。財務・経理部ではこれまでも、経費計画や営業外特別損益計画といった集計、分析資料を作成してきましたが、この作業効率が飛躍的にアップしました。「経理の管理会計チームでは、少し前までピーク時には土日にも出勤して作業を余儀なくされていました。しかし Sactona 導入後は、通常の勤務時間内で十分に処理が可能になり、現在では集計や分析に労力を奪われることはほとんどなくなりました」(城福 氏) 。



Sactona を利用した業務のイメージ

また、益繁 氏はこうした作業の効率化が財務・経理部スタッフにエネルギーの余裕をもたらし、業務のクオリティ向上を後押ししていると語ります。「手作業のころは、もはや集計がメインの仕事になってしまい、終わると達成感すら感じていました。しかし私たちが本来経理担当者として重視すべきは、集計結果を見て "なぜこんなに増えるのか" といった予算と実績の差異分析を行い、経営層や業務の現場に対して有益な情報を提供していくことです。今回 Sactona 導入で生まれた余裕を、そうした重要な業務に振り向けていきたいと考えています」。

今後の展望

社内に提案のできる財務・経理を目指し ツールのさらなる活用法を探る

昭和電工の財務・経理部では現在、Sactona の活用による管理会計の強化に加え、より社内に対して提案を行っていける部門に成長したいと前向きに取り組んでいます。

「損益分析などは、従来は事業部任せのところがあったのを、財務・経理として自分たちでも提案ができるような体制にしようと話し合っています。また現状は財務諸表レベルの数字だけですが、他のさまざまな数値も取り込むことでより細かな分析や、さらに経営分析まで踏み込んでいけたらと願っています」(益繁 氏) 。

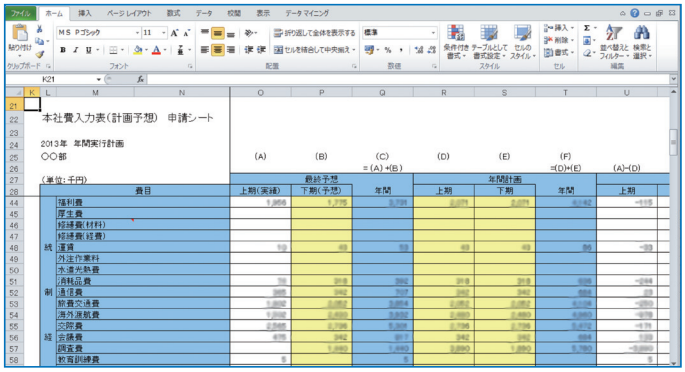
これを受けてアウトルックコンサルティング株式会社 マネージングディレクター 吉田 裕次 氏は、「Sactona には製品別や主要顧客別管理、あるいは研究開発プロジェクト管理など、さまざまな経営管理や、データ

昭和電工株式会社

収集/集計業務に展開できる機能が数多く提供されており、より高度で多彩なデータ活用に貢献できます。加えて、経営管理業務を熟知した開発者が、つねにユーザーからの機能改善要望に対応しており、またオンプレミスとクラウドを自由に選択できるため、将来的に昭和電工様がグローバルを含めた社内展開を検討される場合にも、十分にお応えできます」と自負を語ります。

一方、BI の面でも Sactona には期待が集まっています。同社では、既に 8 年近く SQL Server の標準 BI 機能を使って情報活用を進めてきた実績があります。しかし、このしくみでは ERP から現在の数値を抽出することはできても、計画値、予想値を入力する手段がありませんでした。「しかし今後は、Sactona をその入力のフロント ツールとして利用できるので、リアルタイムでのシミュレーションなど SQL Server の情報活用の幅が大きく拡がる可能性が出てきました」(加藤 氏)。

加藤 氏は、今後 Sactona をさらに徹底的に使い込んでいきたいと考えています。「当社は新しい技術に敏感で、いつも最新の技術や考え方をできるだけ取り入れようと考えています。そして導入したらそこで満足するのではなく、とことん使って、当社の業務に及ぼす有益な効果を最大限に引き出していかなくてはなりません。そのためには引き続き日立 SC にも協力してもらい、力を合わせて取り組んでいきたいと考えています」。



Excel の入力画面例「入力表申請シート」

具体的には、今のところ経理、計数情報が中心となっている利用範囲をさらに拡大し、環境や事業リスク情報の取集といった分野にも応用したいと言います。「分野を問わず、Excel で情報を収集しているような業務にはどんどん Sactona を横展開して、標準化、定形化による業務の効率アップと品質向上を図っていきたい」と抱負を語る加藤 氏。

より多彩なデータ活用への意気込みが、昭和電工の成長を力強く支えています。

導入についてのお問い合わせ

本ケース スタディは、インターネット上でも参照できます。http://www.microsoft.com/ja-jp/casestudies/
本ケース スタディに記載された情報は制作当時 (2013 年 7 月) のものであり、閲覧される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。
本ケース スタディは情報提供のみを目的としています。Microsoft は、明示的または暗示的を問わず、本書にいかなる保証も与えるものではありません。
製品に関するお問い合わせは次のインフォメーションをご利用ください。
■インターネット ホームページ http://www.microsoft.com/ja-jp/
■マイクロソフト カスタマー インフォメーションセンター 0120-41-6755
(9:00 ～ 17:30 土日祝日、弊社指定休業日を除く)
※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

＊Microsoft、Excel、Internet Explorer、SharePoint、SQL Server は、米国 Microsoft Corporation および、またはその関連会社の商標です。
＊その他記載されている、会社名、製品名、ロゴ等は、各社の登録商標または商標です。
＊製品の仕様は、予告なく変更することがあります。予めご了承ください。

日本マイクロソフト株式会社 〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー